

どんな機材で音楽を聴いていますか？

- 1位** CDやレコード等のプレイヤーをアンプやスピーカーにつなげて聴く(52人)
- 2位** スマホやパソコンをスピーカーに接続して聴く(48人)
- 3位** スマホでそのまま聴く(44人)
- 4位** こだわりのオーディオ機器を持っている(43人)
- 5位** パソコンでそのまま聴く(42人)
- 6位** CDやレコード等をスピーカー内蔵のプレイヤーで聴く(13人)



2つのアンケートから、
“ながら聴き”や空き時間のリフレッシュであっても、音質にこだわって音楽を聴きたいという読者が多いことがわかりました！

ちなみに……
アンケートでは「こだわりのオーディオ機器を持っている」(4位)と答えた方に具体例も聞きました。皆さんどんな聴き方をされているのでしょうか。その一部をご紹介します。

アナログ時代のオーディオコンポーネントとPCプラスDACをつないで、Spotifyのお気に入りに入れた600曲ほどから気分に合わせて再生します。
(スティーブさん／70代)

CDが中心ですが、最近はネットワークオーディオに切り替えてハイレゾ音源で聴くことも多くなってきました。(リティヤエルガーさん／60代)

積もり積もって、マルチアンプ接続を含む10.1ch Dolby Atmos配置の19chサラウンド環境となりました。(rickyさん／40代)

モノラルジャズレコードをステレオカートリッジからモノラルカートリッジに切り替えて、楽しんだりしています。
(GRFさん／60代)



自宅のオト事情

「あなたの『おうち音楽ライフ』は充実していますか？」

ヤマハミュージックメンバーズの皆様に、

普段のリスニング環境や演奏状況についてのアンケートを実施しました。

今回の特集ではそんな皆様からいただいた“オト事情”を紹介しながら、環境改善を提案していきます。



普段、ご自宅で音楽を聴くのはどんなどですか？

リラックスしたいときは良質な音楽を聴き、ギターを弾きます。
rogue3さん／40代

パソコンで作業をするとき(絵を描いたり、文章を書いたりするとき)です。
うっさん家さん／30代

音楽を聴くのは家事や軽作業、また読書時や入浴中にも。
かずもんさん／60代

家事をしながら音楽を聴き、寝る前に電子ピアノを弾きます。
Mioさん／40代

自分から積極的に時間を作るようにしています。
Enchouさん／60代

入浴タイムに防水スピーカーからbluetoothで音楽アプリを聴いています。
新Kazさん／60代

気分転換やゆっくりしたいときに、じっくりと聴いています。
アナログオーディオファンさん／60代

気晴らしで演奏したり音楽を聞くこともあります、技術を高めるために練習したり音楽を聴くこともあります。
やまちゃんさん／10代



[1位]

家事や仕事などをしながら聴く

「○○しながら音楽を聴く」と答えた人が最も多くいました。音楽をかけば家事や仕事に気分が乗ったりするのかもしれません。

[2位]

空き時間やリラックスしたいときに聴く

「リラックス」「リフレッシュ」といった、ちょっとした気分転換の時間を音楽と一緒に過ごすといった答えが続きました。

[3位]

音楽をじっくりと鑑賞する

「しっかり音楽鑑賞のための時間を作る」「じっくり聴き入る」という人は1位の半数程度でした。

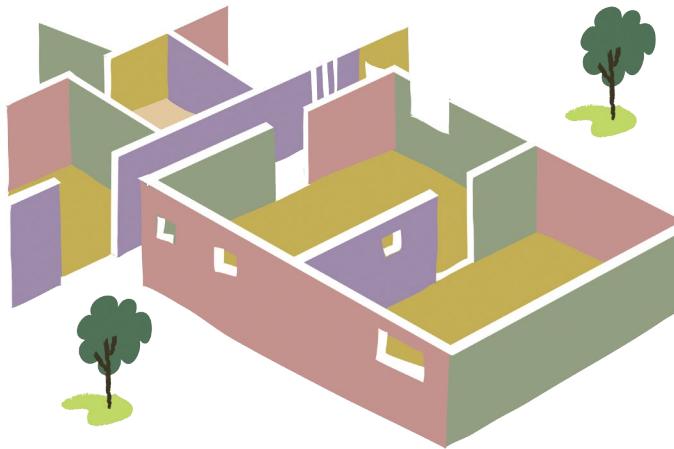
少しの工夫で臨場感アップ！

音環境を改善しよう

自宅で音楽を楽しむ時間は、心をほぐす大切なひととき。しかし、住環境や近隣への配慮で音量を控え、臨場感に物足りなさを覚えている人も多いはず。音量に頼らず、空間や音の質を工夫して、自宅で快適に音楽を味わうコツとは？ 引き続き生形三郎さんに協力してもらいました。

心地よく音楽を聴くために見直すべきポイント

お気に入りの曲を自宅でゆったりと聴く時間。それは音楽ファンにとって、日々の疲れやストレスを癒すから実践してみよう。



やすための大切なひとときではないだろうか。

しかし特に都市部では「思うようには音が出せない」「近くへの配慮でボリュームを上げられない」といった悩みが尽きない。近隣や自宅の生活音や会話が気になってしまふことも多い。そんな環境では、十分な音量で臨場感を得ることが難しくなっているのが実情である。

事前に行った読者アンケートで最も多かった音の悩みは音量に関するものだた。「音漏れが気になり、実際に聴きたい音量で聴くのをためらってしまう」「家族に気を遣つてボリュームを下げてしまい、臨場感が足りない」といった声が多く寄せられた。“好きな音楽を聴く”という日常的な行為にも、住まいの制約が深く関わっているのだ。

一般的な部屋の中では、スピーカーから出る音はさまざまな場所に反射し、本来の音が耳に入るのは10パーセント程度だという。けれど、部屋のオーディオや家具のレイアウトひとつで音は簡単に変わるもの。少しでも本来の音を聴けるよう、できるところから実践してみよう。

部屋でかける音楽の音がよく思えない。そんなときは……

豊かなオトと暮らす

スピーカーが正しく置かれているかを確認しよう

基本にして最大の効果を發揮するのがスピーカーを正しい位置に設置すること。左右対称、安定した場所に水平に置くだけで聴こえ方は改善する。余計な振動が伝わらないような、硬くしっかりとした材質の上に置こう。「両スピーカーの周囲もできるだけ同じ環境にできれば、なおよしです。スピーカースタンドなども活用してください」(生形さん)

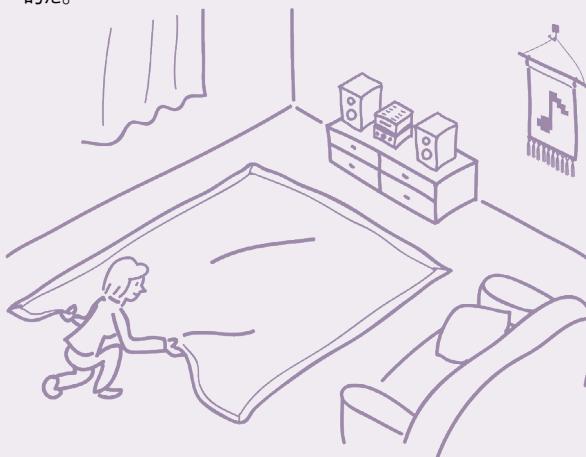


スピーカーを乗せる硬い材質では、例えレンガやコンクリートブロック、鉄製ブロックといった重量感のあるものがなおよい。

スピーカースタンドも効果的。

吸音性に優れた製品を取り入れる

余計な音の反射を抑えるには、床がフローリングの場合はカーペットやラグなどを敷くといい。また、カーテンやタペストリー、ソファやクッションなど吸音性に優れたファブリック素材を取り入れることも手軽で効果的だ。



室内の反射を抑える

壁と床、壁と天井など、部屋の隅(角)は音がたまって反射が多くなり、響きに影響を与えやすい。本棚といった家具を部屋の隅に置くなどして、室内的のコーナー部分をなるべく減らそう。コーナー対策用グッズも市販されているので合わせてチェックしてみては。



コーナー対策用グッズは市販されているほか、段ボールや綿などを使って手作りしても楽しい。

簡単的なスピーカーしか持っていないので、本来の音を再現できないです。(提琴師さん／60代)

ディズニーランドやディズニーのパレードやショーの音楽を聴くのが好きなのですが、家のスピーカーで聴いても臨場感がありません。(Mioさん／40代)

スピーカー周辺に置かないほうがいい物

ガラス製や金属製のアイテムなどは音を反射して振動してしまいノイズになる。その材質の物はスピーカーから距離を取って。また、中が空洞になっている筒状の入れ物(ポスター収納筒など)や叩くとポンポンと鳴るような物(段ボール箱など)も響きを左右するので避けたほうがベター。



音楽の楽しみ方は、時代や生活環境とともに変化していく。ならば、少しだけ考え方や意識も変えてみよう。大きな音で鳴らすことが難しければ、空間そのものを整えて、心地よく響く音を追求してみるのはどうだろう。音の深みや立体感を得られると、音楽を聴く時間はぐっと豊かになる。

ボリュームではなく音環境の質を上げて、音楽をより味わう——そのため、自宅で無理なく実践できる音環境づくりのポイントを紹介する。少しの工夫で、部屋に流れる音楽はさらに鮮やかに、より立体的に響くはずだ。

自宅で音楽を聴くときの悩み

1位 音量が上げられない

2位 機器のテクニカルな悩み

3位 音質があまりよくない

4位 臨場感が得られない

読者アンケート「ご自宅で音楽や音(映像音)を聴いているときのお悩みごとは?」の回答を大きく分けると最も多いのは「音量の悩み」だった。次に「機器の悩み」であり、環境によって使いこなせていないという意見も受けられた。

現状のオーディオを使って、音量ではなく、音質をアップすることで改善を図ろう。

聴き取りにくさを改善しよう

現代の薄型テレビは、その形状が大きな理由で音質には不利。これが聞き取りにくさの一因といえる。その対策には「サウンドバー」が有効だ。



薄型テレビの高音質化には サウンドバーがおすすめ

テレビの音が聞き取りづらく、つい音量を大きくしてしまい、他の家族に迷惑をかけてしまう。これは、加齢による聴力の低下、居住空間の音の不要な反射(定在波:33ページ参照)などの原因も考えられるが、いちばん大きな理由は薄型テレビのスピーカーにある。

「ヤマハではスピーカーを商品化していますが、スピーカーはドライバーという音を出す機械があればよいわけではなく、エンクロージャーという箱と、ある程度の体積を持つ空間が必要です。しかし、現代の薄型テレビは前から見るとほとんどが画面で、スピーカーの配置場所がありません。昔の真空管を使ったテレビは奥行きがあり、大きなスピーカーを配置することができました。

つまり、現代の薄型テレビは音質的に不利で、映画などで声が聞き取りづらいという悩みを多くの人が感じています。(ヤマハミュージックジャパンの手塚忍さん)

実際、近年の薄型テレビは省スペース化のため、小さなスピーカーを下向きに配置していることが多い。クリアな音声を楽しむには十分ではない。その対策としては、外部にテレビ用スピーカーを追加するところが有効だ。そのためのスピーカーには、視聴者のすぐ近くに置く手元用のものなどもあるが、多くの人が利用しているのが「サウンドバー」と呼ばれるスピーカーである。これは、テレビを置いた台の手前の空いたスペースに置ける横に長い形状のスピーカーで、テレビと接続して手軽に音質を向上できる。

「ヤマハでは映画館のような音響を家庭で再現するため、AVアンプや

豊かなオトと暮らす



サウンドバーで 没入感&臨場感がアップ



音質を吟味して
設計した新開発
のアイシエイド・
オーバル・スピーカーを採用。

「SR-X90A」は、サウンドバータイプのスピーカーと、低音専用のサブウーファーをセットにした最新モデル。新開発のアイシエイド・オーバル・スピーカーの採用や、独自のビームスピーカー技術によるリアル・ハイチャンネル再生により、「ドルビーアトモス」などの3Dサラウンド再生で立体的な音場再生を実現。「AURO-3D」もサウンドバーとして業界初対応するほか、ネットワーク音楽配信サービスにも対応し、音楽再生も本格的な音で楽しめる。



サウンドとは?

前方だけでなく、後方や天井にスピーカーを配置することで、あらゆる方向からの音を再現する立体音響技術。映画館で採用されるほか、AVアンプなどのホームシアターシステムでも採用される。

音声規格とは?

音を聴かせる方法に関する規格のこと。古くから「ドルビーデジタル」や「DTS」、テレビ放送の「AAC」などがある。近年はさまざまな3Dサラウンドの音声規格が登場しており、「ドルビーアトモス」「DTS-X」「AURO-3D」などがある。

「ドルビーアトモス」とは?

米国のドルビーラボラトリーズが開発した3Dサラウンド方式。前後左右に加え、天井にもスピーカーを配置することで、実際にその場にいるような音響空間をリアルに再現できる。3Dサラウンド方式としてはもっとも有名なものといえる。

サウンドバーの選び方は?

サウンド用スピーカー、それらを組み合わせたホームシアター用スピーカーセットなどを古くから商品化していました。サラウンド再生には5・1チャンネルなどたくさんスピーカーが必要になりますが、一般住宅の部屋にはあまり多くのスピーカーを置くことができません。そのため、ヤマハでは生活にマッチしたデザインのスピーカーの開発に力を注いきました。そして、薄型テレビの音が聞き取りづらいなどの声に応え、二〇〇九年にサウンドバーの元祖ともいえるホームシアターシステム『YHT-S400』を生み出しました。これまでのサウンドスピーカーづくりのノウハウを生かし、他社に先駆けて発売した画期的な製品で、当時たいへん好評を博しました。(ヤマハミュージックジャパンの小林博文さん)

その後、サウンドバーは薄型テレビの音質向上に役立つスピーカーとして定着し、人気を高めている。薄型テレビの大画面化やデザインの変化に合わせて、サイズのバリエーションも増え、より使いやすく進化している。また、ヤマハのサラウンド再生の技術を生かし、ワンボディ

現在はサウンドバーを発売するメーカーが増え、たくさんの商品がある。では、どんな製品を選べばよいのだろうか。

「サウンドバーはやはりスピーカーですが、本格的なオーディオ用スピーカーを発売しているメーカーのほうが多いです。音質が良ければ、それを選んだほうがよいかと思います。ヤマハはこうしたノウハウや技術が豊富にあり、セリフを聞き取りやすくするためのセンタースピーカーや、クリアボイス機能、迫力ある音を感じるためのバスエクステンションなど、テレビ放送や映画、ゲームなどをより楽しめる機能を盛り込んでいます。こうした機能を備えたモデルを選べば、テレビを使つたさまざまな楽しみに幅広く対応できると思いま

自宅演奏をもつと楽しもう

自宅での楽器演奏には音量制限をはじめとする悩みが多い。それでも工夫しだいで演奏の充実度は格段に高まるだろう。自宅での練習や演奏をより楽しむためのコツと視点を紹介する。

毎日の練習や演奏時間をより充実したものに

自宅で楽器を奏てる時間の大切にしている人は多いだろう。仕事や家事の合間に自分の音と向き合うことでも気持ちを切り替えたり、演奏技術に磨きをかけたりできる。

しかし、自宅演奏にはさまざまなお悩みがつきまとつことも事実だ。今回行つた読者アンケートによると「大きな音が出せない」「音が出せる時間が限られている」という回答が最も多く、続いて「演奏を思い切り楽しめない」という声が上位を占めた。このほか、室内の音響について、演奏の上達についてといった悩みが挙げられ、限られた空間で思いどおりに演奏することの難しさが表れている。

また、音楽仲間や指導者の目がなすのは簡単なことではなく、堅張りといった側面もある。

それでもやはり、自宅演奏の時間を充実させたい！制約や悩みを抱えつつも、音楽と向き合うことで得られる喜びや楽しさは日々のエネルギーにもなるだろう。

ここでは、自宅演奏のモチベーションを高め、さらに楽しくするためのコツをご紹介。自分だけの音楽体験を深めながら、毎日の練習や演奏時間を豊かなものにしていこう。

読者アンケート

自宅で演奏するときの悩み

1位 音量が上げられない

近所や家庭内への配慮から、気兼ねなく音を出すことができないという人が最多くいました。

2位 演奏の楽しみ方に関する悩み

演奏する機会がない、上達を感じにくい、自宅練習用の楽器だと本番用とは違って満足できないといった、物足りなさを回答された人が次に続きました。

3位 ヘッドホンの悩み

つけていない時と比べて音質が変わる、空気感があまりない、圧迫感があるなど、ヘッドホンの性能や付け心地による悩みが見られました。

4位 楽器の悩み

セッティングに時間を取りってしまう、使いこなせないといった回答がありました。しかし、楽器の機能に対して悩みを持つ人は最も少数でした。

豊かなオトと暮らす

主に耳コピで演奏しているので、自分のレベルが向上したらない。(86さん／60代)

録音・録画をしよう

楽器演奏をする人にとって、自分の演奏の録音・録画は上達への大切な第一歩。客観視することで演奏のクセや修正ポイントなどが明確になる。「僕も音大受験に向けてピアノを練習していた頃は、自分の演奏を録音していました。冷静に聴き直して、次の演奏にフィードバックする。個人練習の際には必須とも言えると思います」(生形さん)

いつでも練習できる環境です。一方で、実際に演奏する機会がないというのが悩みの種です。(リタイヤエルガーさん／60代)

音を合わせよう

自宅でも「ほかの楽器と音を合わせたい」。そんなときに役立つのが専用アプリ。お気に入りの曲を伴奏にして自分のパートのみを演奏できる「Extrack」(エクストラック)はテンポやキーの変更ができ、練習をより効率化する機能が充実している。また、離れた場所にいる演奏者同士がリアルタイムにセッションできるのが「SYNCROOM」(シンクローム)だ。物理的に集まることが難しい環境でも「一緒に演奏する楽しさ」を体験できる。手軽なアプリを活用しながら、自宅演奏の可能性を広げよう。



Extrack

演奏したい楽曲を読み込むと、ボーカル、ギター、ピアノ、ベース、ドラムなどの音を楽器パートごとに分離。マイナスワン再生で本物のアーティストと一緒に演奏をしていくかのように楽しく練習できる音楽アプリ。コード進行の表示やテンポ、キーの変更にも対応。



室内の壁や家具に反響し、一部の音で共鳴が起きる。(ミラノンさん／60代)
練習する環境によって音の響きが違って良い練習ができることがある。(やまちゃんさん／10代)

防音室や調音パネルを活用しよう

思い切り演奏したい！という方は防音室の導入を検討しよう。演奏音を外部に漏らさず、生活音などからも切り離せる。また、時間帯を気にせず演奏や練習ができるのも防音室の利点だ。リスニングの音環境を整えることに有効な調音パネルも、音の響き過ぎ防止に役立つ。理想を追求するなら、遮音しながら良い響きに整える両方を組み合わせよう。



防音室はさまざまな広さが選べるので、スペースや演奏楽器に応じて導入できる。(写真は1.5畳のアビテックス)

SYNCROOM

遠く離れた人たちとオンラインで気軽に音を合わせられるアプリ。ネットワークの「遅れ」によるストレスを低減。バンドメンバーと予定が合いにくい、練習スタジオが近くないといった場合にも役立つ。新しい音楽仲間と出会えることも！

